

なまもろーど

The Name Read

ホームページアドレス
<https://ranshokai.jp/>

E-mailアドレス
info@ranshokai.jp

発行所 高岡教区寺族青年会
 住所 〒933-0878
 高岡市東上関466
 西本願寺高岡会館内
 発行人 福田 慶隆
 編集者 広報部
 発行日 2021年3月31日

会長挨拶

鸞翔会

第二十二代会長 福田 慶隆



日頃より寺族青年会の活動に多大なご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。また、二月十九日には「第二十七回浄青僧全国大会 from 高岡」を皆様のおかげにより無事開催することができました。重ねて厚く御礼申し上げます。

さて、今年度を振り返ると、コロナ抜きには決して語れないでしょう。コロナ時代といわれるほど日常生活が一変した中で、全国大会に向けた寺青活動はもちろん、世の中全体が大きな不安と共に歩んだ一年でした。とりわけコロナ禍に入ったばかりの頃は、社会全体が何か特別な緊張感に押し潰されていたように思い起こされます。あの只事ではない空気感は、どこか十年前の東日本大震災と重なるものを感じたことでした。

連日報道される感染者の数に一喜一憂する毎日。マスク不足、コロナ差別、ステイホームによる経済格差や心の問題など。どれも自分と無関係では

なく、身近なところで生々しく突き刺さってくる中で、何か自分にできることはないか、今だからこそすべきことがあるのではないかという思いが、寺青会員全体として広がっていったように感じています。

会全体でコロナ禍に向き合う行動をしようとして決めたからは、会員一人一人の思いがより熱意をもって伝わってきました。一人一人の状況により、考えていること、受け止めていることは様々です。個人ではなく会だからこそ、いろんな感性があることに気づかれます。それらが混ざり合う中から、寺青フリーペーパーの発刊など、コロナ禍における自分たちの活動が生まれてきたことは、会活動の魅力を再認識する意味においても大切なことだったと思います。

若い同世代の寺族青年が集まる会だからこそ、旧来的なお寺の関係性から離れ、一人の人間として素直に思いを語り合えます。今感じていることを話し合う中で、お互いに刺激を受けながら、思いが形ある行動へとつながっていくのは、会活動ならではです。

思いがあれば活動は生まれます。今回の浄青僧全国大会も、オンライン開催は初めての試みでした。若い感性が結集すれば、いろんな議論もできてきます。共に向き合い、共に悩む中で、大会にかけるとはより強く共有されていきました。またOBをはじめとした多くの方々温かく支えていただく中

で、この会の伝統を振り返り、寺族青年としての自分たちの姿勢を改めて見つめ直すことにもなりました。

寺青では、サークル活動などを通して会員の親睦が深まることも魅力の一つです。ですがこのコロナ禍によって、各サークルが思うように活動できなくなっています。会自身として親睦行事も行えていません。飲み会という親睦だけは、流行りのオンライン飲み会にいち早く飛びつき、楽しく繰り返ししてきました。ただ毎回感じるのは、やはり実際に会って話をしたいということ。大切な歓送迎会だけでも集まりたいのですが、いつまでも見通しは立たず、コロナ禍の現状に溜め息をつかずにはおれません。

しかし世の中がどうであろうとも、若い感性を強みとし、社会を見つめ、自分たちに何ができるか、また何をすべきか、共に模索し合っていくのがこの会の伝統です。現実に向き合いつつ、これからも自分たちの活動として、楽しみながら皆で歩み続けていきたいと思えます。

仲間がいるからこそ、できることは無限に広がります。会員同士の豊かな人間関係は寺青の醍醐味です。ぜひ教区の寺族青年の方々と共に、この輪を広く、より豊かなものにしていきたいと願っています。皆様方におかれましても、今後とも変わらぬご指導ご助言を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

コロナ禍にまじわる新規事業

光照寺 公文名 智

新型コロナウイルスによって、誰しもが否応なく生活スタイルの変更を余儀なくされました。鸞翔会においても早々にオンライン上での会議を導入し、今後の活動について話し合う中で「まずは自分たちにできることを、身近なところから進めていこう」という意見が多く聞かれたように記憶しています。

当時は「アベノマスク」が騒がれ、実際にマスクの確保がむずかしい状況でもありました。そんな中、お世話になっている福祉作業所へマスクを配布しようという咄嗟に動いてくれた会員がいたことは、活動体としての鸞翔会のあり方を再確認する良いきっかけとなりました。

さて、コロナ禍において、本願寺のみならず別院や一般寺院においても法要や法話の配信が行われるようになりました。多くの法事や行事が延期・中止されていく中で、出来ることを何とか工夫してやっついこうという姿勢は大事なことだと思えます。かく言う私たちも『第三回ふるこはんフェス』のオンライン配信に参加し、そのことを実感しました。

「お坊さんチューバー」をはじめ、コロナ禍前後より多くの僧侶がSNSを駆使した活動をはじめておられます。「新たな伝道のかたち」として今後とも注目を集めていくことでしょう。鸞翔会としてもインスタグラムとツイッタのオフィシャルアカウントを立ち上げました。手探り状態ではありますが、無理なく続けていこうと思います。

また一方では、インターネットを利用した活動ではなく、カタチある紙媒体を通しての活動も模索し、より気軽に誰もが手に取れるフリーペーパー『南無



／numb』（ナムナム）の発行も進めてきました。「マヒした心を解きほぐす。坊主のつぶやき」という発行趣旨にもあるように「numb」には「麻痺した、無感覚な」といった意味があります。目まぐるしく変化する社会に翻弄され、ただいたずらに生活を送るのではなく、共にほとけ様の教えに学び、深め、生きていこうという想いの中で発行しました。鸞翔会の新たな発信媒体として継続していきたいと思えます。

「自分たちができることを、身近なところから」。会員で共有したこの想いをベースに、試行錯誤を重ねた一年だったように思います。思いつくままに新しい活動を、というわけではありません。「消費されていく情報」ではなく、本当に「伝わる教え」とは何なのかを考えていきたいと思えます。

井波別院永代経法要出勤

令和三年七月二十四日

西養寺 三山潤也

井波別院永代経法要に、出勤させていただきました。この一年間にご往生された門信徒の方を追悼する法要であります。新型コロナウイルスの影響で、全国的に数多くの行事や法要が中止となっている中で行われた今回の永代経法要で、亡くなられた方を偲び、浄土真宗のみ教えを聞かせていただく尊いご縁となったのではないかと思います。

世の中のもの移り変わっていて、何一つとして変わらないものはありません。どんなに科学技術が発達しても、私たちは毎年一歳ずつ年をとります。そして、毎年、姿も、考え方も、自分では気付かなくても変化し続けています。それは、決して誕生日の日に突然変化するわけではありません。一日一日変化し続けています。



によって、とらわれを離れ、お念仏申す人生を送らせていただきたく思うばかりです。

しかし、私たちはこの変化を受け容れることが難しいのではないのでしょうか。特に、親しい方とのこの世での関わりは、永遠に続くと思ってしまう。お釈迦さまは、私たちが抱える苦しみの一つを、親しい方とも別れなければならぬ「愛別離苦」と示されました。

今回の法要では、このように真理に基づいて生きていくことが難しい私たちに、阿弥陀さまがはたらいていてくださるのだと学ばせていただいたような気がいたします。この阿弥陀さまのはたらき

第三回ふるいはんフェスonline

令和三年九月二十七日

圓徳寺 池内将貴

九月二十七日、伏木組勝興寺にて第三回目となる『ふるこはんフェス』が開催されました。私たち寺青は、現役会員にOBやOG、会員でない方も含めて総勢二十二名で参加させて頂きました。今回はコロナ禍のため、現地への参加者の人数を制限し、かつYouTubeで配信を行うオンライン形式で開催されることとなりました。また、高岡市のケーブルテレビでも同時に生放送されました。

私たちは前回と同じく、法要、ミニ法話、衣体の説明を行う形で参加いたしました。法要は、シンセサイザー奏者の高野先生の音色に合わせて「宗祖

讃仰作法(音楽法要)」を勤め、雅楽での出仕も行いました。また、ミニ法話は福田会長に務めて頂きました。

しかしながら、今回は前回までと状況が異なる点がありました。それは、飲食店やワークショップの出演が無く、私たちも坊主カフェ&バー「LOTSUS」を行うことができなかつたことです。カフェ&バーは、参拝者の方々と直接

お話しさせて頂く機会だっただけに非常に残念です。そこで、新たな取り組みをしてみようと考えました。オンライン

配信の利点を活かして、法要中の作法や所作などの解説を添えた動画を制作し、配信させて頂きました。数名の寺青有志が多忙の中で制作してくれた動画は、非常にクオリティの高い素晴らしい出来となりました。フェスのスタッフからも大変好評だったと伺っております。

コロナ禍という特異な状況下で本番に向けて準備する難しさを痛感しましたし、オンライン配信というこれまでと異なる緊張感もありましたが、無事に終えられたことへの安堵感や達成感があります。YouTubeやケーブルテレビでの視聴者はそれなりに多かつたようで、これまで現地へ足を運べなかつた方々にも寺青の活動の一端に触れて頂けたのではないかと思います。

来年度については現在のところ未定ですが、もし再び参加協力依頼があれば参加したいと個人的には思います。その際には皆様にもぜひご協力頂ければと思います。よろしく願いいたします。



寺青連研

令和二年八月九日・十月三日 令和三年一月三十日

宝性寺・初瀬部 真亮

二〇二〇年度の寺族青年会連続研修会は、二月の浄青僧全国大会へ向けた歩みでもありました。

八月の連研では、伏木組要願寺住職の林史樹さんをご講師にお迎えし、「教区におけるビハラー活動の歩みと現状」と題し研修が行われました。問題提起では特に、「私にとつてのビハラーとは何か」との視点から、ご自身の体験やビハラーとのかかわりを通した様々なお話をいただきました。

ご講師の林さんは「一人の人間として、また念仏者としての日常のすべてがビハラーであり、孤独ないのちを抱えるお互いが、どう関わり共に生きていくのか、それを考え続けていく事がビハラー活動といえるのではないか」と言われ、医療・福祉への関わりや、施設訪問だけに限らずに、私たち一人一人の身近な人間関係や日々の歩みの中にもビハラーの現場があるのではと問いかけてくださいました。

十月には映画『人生をしまう時間』鑑賞会（福井県越前市）、十二月実践運動研修会では「支え合う人間関係とは？老病死の苦悩に向きあう」（講師…元南砺市民病院院長 南真司さん）とのテーマの中、医療・福祉に携わる方々の姿を通し、私たちが

が宗教者として老病死の苦悩の只中にある人に、どう向き合い関わっていけばよいのかを共に考える機会とさせていただきますました。

この一年の研修と学びを振り返ったとき、「現実の命の苦



悩に対して宗教者として何が出来るのか」を模索することは同時に、一人の人間としての私自身の日々のあり方や人とのかかわり方が改めて見つめなおされる時間でもあったように思います。

大会は終了しましたが、研修会を通して気づかされたことを大切に、「共に支え合い共に生きていく」とはどういうことなのか、今後も寺青活動のみならず、それぞれの人生において考え続けてまいりたいと思います。

実践運動研修会

令和二年十二月十九日

光覚寺 青雲 乗峻

昨年の十二月十九日、南真司先生（元南砺市民病院院長。現在は南砺市政参与、地域包括ケア課顧問）と現役の看護師三名をお招きしての実践運動研修会に参加させていただきました。まず、南先生にご講義いただき、その後は看護師の方を交えての班別会議となりました。私の班では、トータルペイン（全人的苦痛）の話し合いが中心となりました。看護師の方のお話によると、終末期の患者の方々の肉体的・精神的・社会的な苦しみに対しては、現代の医療や福祉の体制による働きかけができるそうですが、人生への問いや死後の世界などへの関心や苦悩に対する働きかけは、難しい課題であるとのことでした。そして、その点に関して私たち僧侶への期待の声があることもうかがいました。私自身も、その苦しみにどのように寄り添っていきけるのかを一緒に考えさせていただきますました。

その後の意見交換会では、南先生の次の言葉が印象に残りました。「感謝の気持ち忘れず、しっかりとお世話になること」。これは先生が、ご病气等で誰かのお世話なくしては生きていくことができず自己嫌悪に陥っている患者さんに対してお伝えしている言葉だそうです。そこで、看取りの立場を、私なりに考えてみました。それは、「死に向き合ういのちを真摯に見つめ、しっか

りとそのいのちに学んでいくこと」ではないでしょうか。それら双方の関係性が、人間の終末期と看取りの場での実りある姿であり、その連鎖が私たちの生死の営みを価値あるものとして育んでいくように感じます。

この実践運動研修会での経験が鸞翔会各会員の中で徐々に消化され、より充実した全国大会を迎えることができたのではないかと思います。貴重なご縁をいただき感謝申し上げます。

第二十七回浄青僧全国大会 from 高岡

令和三年二月十八日・二月十九日

専龍寺 麻生裕善

去る二〇二二年二月十八日・十九日の二日間に亘って「浄土真宗青年僧侶連絡協議会全国大会 from 高岡」を私たち鸞翔会が担当、開催しました。鸞翔会がこの全国大会を担当するのは十二年ぶりとなります。

今大会は昨年より続く新型コロナウイルス感染症の蔓延状況を鑑み、オンラインでの開催となりました。本来であればこの高岡の地に全国の浄青僧会員が集まった形での通常開催を目指してきましたが、オンライン上で高岡の地からお送りするという意味を込めて、「in 高岡」ではなく、「from 高岡」という表記にさせていただきました。

私たちは、今大会のテーマを「Living/Dying 生まれ往くいのちに」と設定し、ビハラー・ケア、ホスピス・緩和ケアの活動や理念、その精神から学びを深めようという趣意のもと、全四回にわたる研修を重ねてきました。

十八日は、全国大会事前研修として午後八時より『人生をしまう時間』というドキュメンタリー映画を、今回のみの特別限定上映という形でオンラインにてライブ配信し、百二十八名の参加でした。この映画は在宅診療に従事され、これまでにたくさんの方を病院ではなくご自宅で見送ってこられた森嶋外郎孫、現在八十二歳にして現役の小堀嶋一郎医師に二百日に及ぶ密着取材の記録

です。そこには普段私たちが目にするのではない、死に直面した方と、そのご家族の葛藤や嘆き、願い、一人一人の人生の終わりに向き合った小堀嶋一郎医師と在宅医療に携わる人々の日常の様子がありのままに描写されていました。

十九日は合計百三十一名の参加がありました。第一部の講演には、十八日に上映した『人生をしまう時間』の密着取材をし、この映画の監督でもある、下村幸子氏にご登壇いただきました。取材された中での実際のやりとりや、その中で生まれるご自身の葛藤、映画制作におけるその思いをお話いただきました。その中でも、「死を不条理なものとして覆い隠すのでは無く、もっと身近なものになってもいいのではないか」というお言葉が印象に残っています。

第二部の講演には、『がんばれ仏教！』や本願寺派の前御門主との対談本『今、ここに生きる仏教』など多数の著書を出されている、上田紀行先生にご登壇いただきました。お話は過去の鸞翔会とのつながりから始まり、ご自身のお母さまとの看取りまでの体験談など、他にもいろいろなお話をいただきました。その中で「法を説くことばかりではなく、聞くことが大事」というお言葉が印象に残りました。そこから私たち僧侶自身が伝えることばかりでは無く、自他共にいのちの苦悩にもっと耳を傾けることの大切さを聞かせていただいたように思います。

私たちはこの全国大会やこれまでの研修での学びを通して、仏さまのお慈悲のおこころに学びつつ、この「老病死」の苦悩の現実に対して、僧侶として一人一人の人間として、常に自らを点検し、問いかけ、「死」と「死にゆくいのち」に対して、これまで以上に深く向き合い、関わっていかねなければならぬと改めて実感しました。鸞翔会としても、これまでの研修を全国大会のための研修として終わりにするのではなく、これからも継続してこの学びを深めていきたいと考えています。

最後になりましたが、今大会開催にあたり、多大なご協力、ご協賛をいただき、支えてくださった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。





手話サークル

代表 射水 梓

手話サークルでは例年、脇坂菊雄さんをご講師に迎え、月に一回程度手話の練習を行っています。しかし今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、練習の機会を持つことができませんでした。

手話で会話をする際には、手話だけでなく相手の口の形や表情から内容を読み取ることも大切です。またマスクを着用せずサークル活動ができるようになるまで、どのように練習をするか、またしないか等サークル員と話し合っていきたいと思えます。

また、現状練習に参加することができない現役の寺族青年会会員が少なく、ほとんどがOBの方になっています。次回の手話サークルの練習日は未定

フットサルサークル

代表 麻生 裕善

ですが、再開しました時には以降の予定などお知らせいたしますので、ご興味を持たれた方は伏木組光西寺射水までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

昨今のコロナ禍の状況により二〇二〇年度の活動は、二〇一九年度の二月の練習をさかいに現在、休止状態となっています。前回の青蓮会により福岡県で開催された浄青僧フットサル全国大会では最下位という結果で、その雪辱に燃えていたのですが、残念ながら大会自体中止となりました。フットサルというスポーツの性質上、濃厚接触が避けられず、状況を見つつ練習を再開したいと思っておりますが現在その目処がたっていないのが正直なところではあります。

このフットサルサークルは現役寺青会員のみならず、五十代までの寺青OBの方も参加されています。世代を超えて、また幅広い地域の方々との交流ができるのが大きな魅力です。参加されるほとんどの方が未経験から始められています。

雅楽サークル

代表 麻生 裕善

未だに終息の見えない状況の中でどのように運営していくか、みなさんの知恵をお借りしながら模索していきたいと思えます。またお力添えをよろしくお願いします。

ご興味のある方は、ご一報いただければと思います。会員以外の方も大歓迎です。

去る二〇二〇年九月二十七日に勝興寺にて第三回目となる『ふるこはんフェス』が開催されました。池内実行委員長のもと、例年通り宗祖讃仰作法音楽法要における雅楽演奏の楽人として参加しました。今回は昨年より続くこのコロナ禍により参拝者は限定され、法要の様子は高岡ケーブルテレビ協力のもとオンラインにて生配信されました。周囲にはたくさんカメラが配置され、いつもとは違う雰囲気と緊張感の中で演奏となりました。また感染症対策の観点から、全員マスク着用での出勤となり、マスクの付け外しをしなければならぬなど少し戸惑うこともありました。ですが、この状況下において例年通りの活動ができていな

蓮花の会

代表 水上 法恵

コロナで振り回された一年でしたが、みなさんどのように過ごされましたでしょうか？

今年度の蓮花の会は何も活動することが出来ませんでした。例年は茶話会をしたり、料理教室や手芸に挑戦したり、交流しています。コロナが落ち着いたら、また茶話会から活動していきたいです。新規会員も随時募集しているので、お寺の知り合いを作りたい女性会員の方、ぜひ参加してくださいね。

い中で、雅楽サークルのメンバーと久しぶりに練習や合奏することができ、非常に有意義な時間となりました。今年度の活動としましては音楽法要への参加のみでしたが、状況を注視しながら少しずつ練習を再開していければと思っております。今後とも雅楽サークル独自、または鸞翔会と連携して色々企画していこうと思えます。初心者でも大歓迎ですのでご興味のある方はご一報ください。

退会の言葉



本誓寺 耳浦 康真さん

約十五年に亘って寺青活動に携わって、浄青僧全国大会も高岡大会を二度も経験し、新しく『ふるこはんフェス』の開催など、多くの貴重な経験をさせていただき、感謝しています。

教区活動などで、現役会員の皆さんとはお会いする機会もあると思いますので、これからもよろしくをお願いします。

慶円寺 北島 淳英さん



長楽寺 篠島 敏信さん

気がついたら四十歳になってました。人生長くても後、半分ですね。諸行無常が、いよいよ身に染みてきました。私はたいして寺青の活動に協力できませんでした。しかし私たちのような同僚がいない僧侶にとって、横のつながりを作る寺青はとても大切な集まりだと思います。現会員の皆様は親睦を深めたり、意見を交換する場として寺青におおいに参加していただきたいと思います。



長楽寺 篠島 麻子さん

私は活動に参加することができませんでしたが、みなさんが、温故知新の精神でこれからも活躍されることを願っています。ありがとうございました。



光徳寺 井上 秀明さん

残念ながらほとんど出席することができずに終わりました。ありがとうございました。



正行寺 梁瀬 聖志さん

大変長い間お世話になりました。貴重な時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。

以上。短いですがこれくらいでお腹一杯です。



教願寺 岡西 有可さん

お世話になりありがとうございました。今後も皆さんの活躍を楽しみにしています。

西土寺 数井 教道さん

早いもので、あっという間に四十歳になってしまいました。子供ができてからは、なかなか会に参加できる機会も減ってしまい、大変申し訳ありませんでした。

私が入会したのは、もう十一年前になります。入会した直後に東北の震災がおき、先輩方が熱心に被災地支援の活動をされていたことが思いださせられます。

この十余年で家族が三人減り、五人増えました。そうした人の生死を目の当たりにして、人と人の繋がりがや、受け継いで行くことの意味をととても考えさせられる期間でした。

震災以降、世の中は一気に変わっていったと感じます。また今このコロナ渦の中でその繋がりのありかたも変化しようとしています。そんな時代の中でお寺として何をやっていけるのか、何をすべきなのか、またみなさんと語り合う機会があればいいなと思っています。

十一年間ありがとうございました。合掌



常念寺 上杉 靖吾さん

私は、実際青年会に顔を出すようになったのは三十代半ばになってからで、ちょっと遅かったのですが、それでも様々な勉強や体験をさせていただき、ありがとうございました。

変化が求められる時代。青年会も変わって行かなくてはいけないと感じます。若い会員の皆さんでよく話し合っ、今まであった良いものはちゃんと残しつつ、新しい発想を積極的に採用するなど、挑戦をし続けてほしいと思います。

お世話になりました。



願正寺 瀧山 学さん

四十になり、寺青を退会することになりました。中々参加してこない不良会員の私には、根気よくお誘い頂いた執行部の面々には、住職の本分を見たように思います。ただただ感謝しかありません、お世話になりました。



光伝寺 高峯 尚人さん

お役に立てなくて申し訳ありませんでした。これくらいしか言えることがありませんが、ありがとうございました。

新入会員の紹介



西教寺 梅本 洪道さん

宜しくお願いします。少し自己紹介します。梅本洪道（こうどう）と申します。八十三年生まれの三十八才になります。元々は島根県の生まれですが、縁あって氷見西組西教寺の娘さんと結婚し（娘さんが良かったので付いてきたら氷見に来たって感じ?）、三十四才の時にこちらに参りました。氷見に来る前は広島県のお寺で、十年程法務員をさせて頂きました。

今は、住職をさせて頂きながら介護施設で常勤として、介護現場に務めています。

先般の浄青僧の全国大会には、沢山の方のお力を頂戴し非力ながら、お手伝いさせて頂きました。ありがとうございました。これからも宜しくお願い致します。



宝教寺 海老坂 秋彦さん

初めまして。浄土真宗本願寺派 登加山宝教寺の海老坂秋彦です。五年前ほどに京都の本願寺で得度をし、僧籍を取得致しました。大学は京都ではなく、富山県立大学の工学部を卒業しました。

そのため、まだまだ浄土真宗の教を学んでいる最中ですが、寺族青年会でたくさんの人と関わる中で、学んでいきたいと思えます。

趣味は音楽を聞いたり、ドラムを演奏したりすることです。インドカレーを食べに行くことも好きです。

まだまだ若輩者ですが、これからよろしくお願ひします。



西方寺 佐々木 慶淳さん

川上組の佐々木と申します。まだまだ経験の少ない若輩者ですが、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

新入会員募集・ホームページ・公式SNS

寺族青年会（鸞翔会）では新入会員を大募集しています！気軽に参加してみませんか？



ホームページ(NEW)
<https://ranshokai.jp/>



Facebook
<https://www.facebook.com/ranshokai/>



Instagram
https://www.instagram.com/ranshokai_takaoka/



Twitter
https://twitter.com/ren_namnam/

法輪せんべいのご案内



平素より法輪せんべいをご最買いただきありがとうございます。法輪せんべいは、射水市の萬松堂本舗さんで、一枚一枚丁寧に手焼きされ、袋詰めされています。味は上品な甘さで、硬さもちょうど良く、お茶はもちろん、コーヒーや紅茶にもよく合います。お好みでモナカのようにアイスクリームやあんこ、生クリーム等を挟んでもおいしくいただけるかと思えます。食べたことのない方は是非一度ご賞味いただければと思います。一袋二枚入りとなっております、法要時のお供え、来寺の御門徒さんへのお茶菓子、お茶請けにも最適です。

収益金は、寺族青年会の活動や自然災害被災地支援、または支援活動等に充てられます。

特大 (170袋入)	10,000円
バラ (1組10袋入)	600円

※1組は、桜色5袋・若草色5袋単位での販売です

お申し込み、お問い合わせは

代表番号 050-5587-7708

アドレスはhourin18@gmail.com

編集後記

二〇二〇年度はコロナ（ビルじやないよ）一色の一年となりました。様々な行事や活動が制限され、自粛を余儀なくされました。しかし、そのような状況下においても「新たな活動」や「ふるこはんフェス」、「全国大会」と、私たちにできることの精一杯をぶつけた一年となったように思います。この一年で学んだこと・経験したことが後々きつと私たちの飛躍へつながると信じています。

鸞翔会会員の皆様、今年も一年お疲れ様でした。来年度は役員改選です。新体制となり鸞翔会もまた少しずつ変化していくことでしょう。「本山総参拝」や、今年度中には開催することができなかった「ダーナ・バザー」なども控えております。

まだまだコロナ（COVID-19）の状況は改善される見通しは立っておりませんが、来年度も皆様とともに試行錯誤を繰り返して、様々な課題に取り組み、また楽しみながら実りのある一年となることを期待します。